2021.10.23(Sat)　「散歩ＤＥ日向満喫」

協働のまちづくり NEWS

number 40

特集 **ひまわり塾（SDGs 編）で未来をつくろう！**

～ 未来の日向市を担う次世代リーダーへ ～

2022
3 月号

特集

ひまわり塾

ひまわり塾（SDGs 編）で未来をつくろう！

平成３（1991）年に生まれた「ひまわり塾」。これまで延べ 442 人が修了している中、令和３（2021）年、新たなステージに入りました。本号では、その様子をレポートします。

生き生きとした最終プレゼン 未来を担う次世代リーダーへ！

クライマックスは、12月18日。４グループに分かれた塾生たちが、修了にあたって最終プレゼンテーションに臨みました。

その生き生きとした姿に、４カ月にわたる取組の成果を感じるとともに、塾生の中から未来の日向市を担う次世代リーダーが出てくることへの期待が膨らみました。

それぞれのプレゼンごとに来賓の皆さんからコメントをいただきましたが、どれも評価の高いものばかりでした。一部、ご紹介します。

▼行政が地域の方々と共に進めていかなければならないテーマやアイデアが多く、非常におもしろかった。全体を通して「繋がる」が、キーワードになることを改めて認識した。

▼よくまとまった内容で感心した。考え方も素晴らしかった。「私たちのSDGsアクション」で自治会に注目していたことも良かった。

▼目指す姿がとても明確に描かれていたことに感心した。今後、これらの取組をどのように具体的に実行していくのかに非常に興味がある。

▼バックキャスティング（未来の姿から逆算して現在の施策を考える発想）の考え方などは、非常に重要になってくると改めて感じた。

さて、遡ること９月４日。開講式と第１回講座を行いました。

新型コロナウイルス第５波の影響を受ける中での船出となり、対面ではなく、オンライン形式でのスタートとなりました。

この日は、塾生20人がそれぞれ自己紹介を行った後、本事業のメイン講師・難波裕扶子さん（株式会社シンク・オブ・アザーズ　代表取締役）に、「SDGsとは何か」「なぜ今、この考え方が必要なのか」など、SDGsの概要について、オンライン講義をしていただきました。

現在、本市をはじめ、全国の地方自治体の多くが、人口減少や少子高齢化、また、それに伴う経済規模の縮小などの社会問題を抱えています。

▲第１回講座のスクリーンショット。新しい出会いに、事務局もワクワクしました。

1. 第４回講座。カードゲーム中。手袋着用でコロナ対策もバッチリ。 2. 第５回講座。おそろいの黄色のＴシャツを着て、気分も上がってきました。 3. 第７回講座。最終プレゼンを控えてグループワークにも熱が入ります。

◆主な活動内容

月日	主な実施内容
9/ 4	開講式及び第１回講座【オンライン】 ○年間スケジュール ○SDGs について
9/16	第２回講座【オンライン】 ○新聞記事を用いたワークショップ ○特別講義
10/ 9	第３回講座【オンライン＋対面】 ○特別講義
10/21	第４回講座【対面】 ○SDGs カードゲーム
11/ 4	第５回講座【対面】 ○THE SDGs アクションカードゲーム X ○グループ分け、グループワーク
11/18	第６回講座【対面】 ○グループワーク
12/ 2	第７回講座【対面】 ○グループワーク
12/18	最終プレゼンテーション及び修了式【対面】

※特別講師
第２回/杉尾 守 氏（宮崎日日新聞社）
第３回/宮木由貴子氏（株式会社 第一生命経済研究所）

ひまわり塾 日向市市制40周年の平成３年、まちづくりリーダーの養成を目的にスタート。市民活動団体リーダー養成事業や日向ドラゴンアカデミーとして実施された時期もあるが、持続可能な地域づくりを目指した事業展開とするため、市制70周年の令和３年度に、「ひまわり塾(SDGs 編)」としてリスタート。

今後、これらの課題について、自治体だけで解決していくことは非常に困難であり、地域住民が一体となって取り組む必要があると考えられます。

そのためには、SDGs を活用することで、行政だけではなく、民間企業や市民の皆さんと今後の持続可能なまちづくりや地域運営について、ともに考え、連携していくことができることを学び合いました。

第２回講座と第３回講座では、特別講師をお招きし、「SDGs レンズ」を通して、世の中やまちづくりをとらえていくことを学び、SDGs 17項目の視点から本市のさまざまな魅力や課題を再確認することができました

対面で一気に深まった親睦！「日向市のありたい未来」とは？

塾生が一同に会した第４回講座以降、一気に親睦が深まりました。

一体感の醸成に、大きな役割を果たしたのが、２種類のカードゲームの存在です。

楽しくゲームをしながら、世界には、さまざまな価値観や異なる目標を持つ人たちがいる中で、どうやってSDGs のビジョンを実現していくことができるのか、また、目標達成のためのアイデアを創出する方法など、柔軟な発想力を磨くことができました。

第６回講座から本格的に始まったグループワーク。４グループに分かれて、これまでの講座での学びを生かし、本市の課題や自分自身が取り組んでみたいことなど、自由に意見交換しました。

各グループでテーマを決定し、「日向市のありたい未来」を考え、どのような解決策を実行すれば実現できるのか、また、実現が困難であれば、乗り越えるためには何が必要なのかを考え合いました。

そして、ついに迎えた12月18日。塾生たちは、ドキドキ感とワクワク感を胸に、最終プレゼンテーションの舞台である日向市役所市民ホールに向かったのでした。

自治会

区に入りましょう！ 支え合いの地域へ！

自治会（区）（以下、区）は、同じ地域に住んでいる人たちが、さまざまな活動を通してお互いを助け合う組織です。区は、地域でのふれあいの輪を広げ、共助の担い手として大きな役割を果たしています。

いま、地域活動においても、コロナ禍でさまざまな制約を受けていますが、こういった時代だからこそ大切にしたいのが、お互いを支え合う地域コミュニティです。

区の加入申込がデジタル化されました！

これまで、区の加入方法は、所定の申込書に必要事項を記入の上、直接、区の役員さんにお届けする方法がほとんどでした。

また、新たに転入・転居した場合に、「どうやって加入したらよいか分からない」といった声もあり、市も解決策を検討していました。

このたび、市では、パソコンやスマートフォンから区の加入申込ができるように整備しました。

現在、区の加入率が低下している中で、アパート等の入居世帯の方に、どのように加入促進をするかが課題となっています。

同じく、家庭ごみの分け方・出し方についても、こうした世帯の方へ効果的に啓発する必要があります。

そこで、今回、地域コミュニティ課と環境政策課が協力して、「コラボチラシ」を作成しました。

チラシに記載のＱＲコードを読み取ると、【区加入申込フォーム】や【日向市公式アプリ】につながります。

また、市ホームページ「自治会（区）に加入しましょう」の記事にも申込フォームをリンクしていますので、そちらからも利用できます。

もちろん、従来の申込書による加入もできます。

ぜひ、ご自分に合った方法で区の加入をお願いします！

≪区加入申込フォーム≫

区加入促進月間の取組 平成19年度以来の成果！

日向市区長公民館長連合会（以下、区公連）と市では、毎年6月・7月を「区加入促進月間」として、区未加入者に対する加入促進活動に取り組んでいます。

具体的には、各区において、区の役員さんが区未加入世帯を訪問し、市広報やチラシを配布しながら、区加入のお願いをする取組です。

本年度は、コロナ禍の中、従来どおりの促進活動が難しい状況ではありましたが、各区とも、区長さんを中心に、できる範囲で最大限の取組をしていただきました。

市内90区の訪問・加入の実績については、表のとおりです。

特に、この取組による加入実績が200世帯を超えたのは、平成19年度以来のことで、各区が熱心に取り組んでいただいた成果です。

地域の住民同士で協力することが、自分や近所の安全安心な暮らしにつながります。

地域でつながる気持ちだけは、密にしましょう！

○区加入促進月間の取組

訪問実績	1,597 世帯
加入実績	226 世帯

※市内 90 区の合計

国際交流

コロナ禍でもできることから「交流」と「支援」を！

日向市では、在住外国人が2017年の258人から2020年には406人と急激に増加している中で、「多文化共生社会」の構築に向けた取組が求められています。2021年度は、コロナ禍においても対面の交流を模索し、「交流」と「支援」にスポットを当てて、各種イベントを実施しました。

今、キーワードは「多文化共生」。「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています（総務省）。「少しでもそこに近づきたい！」と、秋から冬にかけて行った市のイベントを報告します。

空の青、海の碧。お倉ケ浜でお散歩×ビーチクリーン

10月23日（土）、「散歩DE日向満喫」。【写真1】

市の観光スポットである「お倉ケ浜」を散歩しながら、併せて、海岸清掃（砂浜のごみ拾い）もしちゃおう！というイベントです。

秋晴れの下、5カ国21人が参加。参加者が自由に会話を楽しみ、ビーチと海の美しさも相まって、気軽に交流する姿が見られました。

「やさしい日本語」を使って地震や津波を分かりやすく学習

11月27日（土）、「防災観光交流バスツアー」。【見出し写真】

市内企業3社から外国人10人が参加。まず、市防災推進課の職員による説明で、地震や津波の特徴、避難方法、日頃の備えなどを学習。

その後、バスで移動し、実際に曽根避難タワーや切島山2区避難山に登りました。

また、「願いが叶うクルスの海」などの観光スポットでは、参加者同士で写真を撮り合うなど、交流を深めました。

サンタさんやトナカイのかわいいクラフトができました

12月18日（土）、「デイヴィッズクリスマス」。【写真2】

毎年好評の親子の体験型イベントです。各地域の子どもたちが参加しやすいように毎回場所を変えていますが、今回は細島公民館で開催しました。

4家族10人が、国際交流員のデイヴィッドさんに教えてもらいながら、アメリカのクリスマスでよく見られる飾り物やクリスマスカードなどを作りました。お菓子のクリスマスプレゼントもありましたよ。

1

2

活動助成

市民活動を助成します

－ひまわり基金市民活動助成事業－

1 3 2

令和３年度の助成事業を紹介します。

1. “日向まちゼミ事業（得するまちのゼミナール）”（日向まちゼミの会）
2. “I Love 宮崎”（I Love 宮崎）
3. “クリスマスマルシェ”（細島しぶき通り商店会）

市の花「ひまわり」のようなまちづくりを

日向市ひまわり基金事業推進協議会（以下、協議会）は、公益的な市民活動に取り組む団体の活動を促進するため、市民活動団体が市内で行うまちづくり、人づくり若しくはものづくりのための事業又はそれらに関する学習会、研修会等に対して、経費の一部を助成する「市民活動助成事業」を行っています。

◆助成率　事業を実施するために必要な助成対象経費の４分の３以内

◆助成額　上限 15 万円

「ひまわり基金」ってなに？

平成元年、国（竹下内閣）は「自ら考え自ら行う地域づくり事業」、いわゆる「ふるさと創生事業」を推進し、全国各自治体に一律１億円（ふるさと創生資金）を交付しました。日向市は、この１億円を基金として積み立て、基金から生じる運用益金を、市の花「ひまわり」のように、常に太陽に向かって、明るく、おおらかな、人情豊かなまちづくりのために活用することとし、「日向市ひまわり基金条例」を制定しました。現在まで、まちづくり、ひとづくりのための事業を推進しています。

◆対象事業

対象事業	①地域社会に直接還元される事業又は広く一般市民に公開される事業であること。 ②団体又はグループの運営費的な事業でないこと。 ③５人以上の会員で組織された団体によって実施される事業であること。
対象事業の内容	①花いっぱい運動等、美しいまちづくりを推進するための環境美化事業 ②住民間の交流、ふれあいづくりなどを目的にした地域づくり事業 ③地域住民の健康づくりや青少年の健全育成を目的とした事業 ④住民の芸術、文化活動を通じてのまちづくり事業 ⑤各種の学習会、研修会、講座、講演会、シンポジウム等の開催事業 ⑥自然環境の保護や環境保全等を目的とした活動推進のための事業 ⑦その他、市民活動団体自らがまちづくりを行っていくための事業

※ほかにも要件がありますので、申請を希望する場合は、事前に協議会事務局（地域コミュニティ課）までご相談ください。

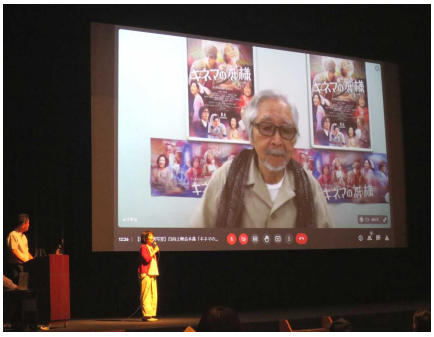
なお、申請は、事業開始１カ月前までとなっています。

市民支援

市民提案を支援！ 共にまちを元気に！

－日向市市民まちづくり支援事業－

令和３年度の支援事業（2022/3/1 現在で実施済のもの）を紹介します。 1.“農業体験を通して豊かな感性を育む大王谷農業小学校”（大王谷農業小学校） 2.“日向市制施行 70 周年記念映画『キネマの神様』日向市特別先行上映会”（山田会） 3.“さぁ、広げよう農業小学校”（財光寺農業小学校） 4.“まちなかハロウィン 2021”（まちなかハロウィン実行委員会） 5.“サーフタウン日向のリラックスベンチを作ろう”（日向市倫理法人会）



1 2 3 4 5

市民の皆さん！ ぜひ、“元気な日向”に向けて、まちづくり事業を提案してください！

市は、元気で活力あるまちづくりを推進するため、市民の皆さんが自ら企画・運営するまちづくり事業を募集し、日向市市民まちづくり支援事業審査会（以下、審査会）の審査を経て選考された事業に対して補助金を交付します。

応募できる事業等については、下表のとおりです。その他、応募要件、募集要項、提出書類など、詳しくは市ホームページをご確認ください。

令和４年度の事業を募集中！

≪募集期間≫

R4

3/1（火）～3/31（木）

◆応募できる事業等について

事業の種類	内容	補助率	補助限度額
地域づくり事業	コミュニティの活性化及び醸成につながる事業（祭り、運動会、交流会、祝賀会の類は除く。）	補助対象経費の 3/4 以内	50 万円
地域のにぎわい創出事業	市内全域を対象とする祭り、スポーツ大会、講演会、シンポジウム、文化芸術の発表会、展覧会、観賞会等のイベント及び文化芸術として、将来に継承すべき伝統的イベント	補助対象経費の 1/2 以内	50 万円

※補助金の額は、審査評点の結果によって変動します。

※令和元年度から、同一団体による同一内容の事業への補助金交付は、通算して５回までを上限とする取扱となっています。

※申請を希望される方は、事前に審査会事務局（地域コミュニティ課）までご相談ください。

まち協

東郷発

「山陰百姓一揆」紙芝居 DVD 完成！

これまで、夏祭りなどで、「山陰百姓一揆の供養盆踊り」継承に取り組んできた東郷まちづくり協議会。今回、「山陰百姓一揆」の歴史を後世につないでいくため、「山陰百姓一揆 DVD（紙芝居編・史跡編）」を制作しました。

地域を愛し、祖先を敬う気持ちを子どもたちにつないでいく

東郷まちづくり協議会（以下、東郷まち協）では、「山陰百姓一揆」の歴史を後世につないでいくため、このたび、「山陰百姓一揆ＤＶＤ（紙芝居編・史跡編）」を制作しました。

10月28日に市長及び教育長へ寄贈された後、市内の小中学校や関係団体に配付されました。

このＤＶＤは、同一揆を題材にした紙芝居を映像化したもので、「伝承紙芝居の動画編」と「史跡・資料編」の２枚組となっています。

動画編の台本や絵は、昭和57年に当時の美々津中学校２年生が制作した作品を基に、福瀬区の小林さんが加筆修正したものを提供いただきました。

山陰百姓一揆とは

山陰百姓一揆は、元禄３(1690)年、延岡藩臼杵郡代梶田十郎左衛門の苛政に対し、山陰村のほぼ全員にあたる1,500人が高鍋藩領に逃げ出した事件で、幕府評定の裁断を経て11カ月もの歳月を費やした一揆です。

百姓の代表達は処刑されましたが、延岡藩との交渉で、ほぼ要求を認めさせる事ができました。

声の出演は、卒業を目前に控えた東郷学園９年生と坪谷小学校５・６年生の児童生徒が担当。

総合的な学習の時間を利用し、声優・池田知聡さん（宮崎市出身）に指導いただきながら、練習を重ねました。

また、制作にあたっては、（株）ケーブルメディアワイワイ日向局に協力いただいており、最後の授業では、ＦＭ日向の録音スタジオでの収録となりました。

今回のＤＶＤ制作を経て、東郷まち協の鈴野会長は、「地域を愛し、祖先を敬う気持ちが子どもたちに芽生え、大きな躍進への礎になった。東郷地域の振興やにぎわい創出に活用していきたい」と話されました。

▲ＦＭ日向の録音スタジオでの収録風景

細島発

地域で目を光らせる！
子どもを守ろう！

令和３年４月に「地域の安全・安心活動推進モデル地区」指定を受け、主に細島地区内で地域防犯や交通安全活動を取り組んでいるＨＯＳＯＳＨＩＭＡまちづくり協議会。

令和４年１月10日(月)に、地域防犯・交通安全「新春のつどい」「110番の日」合同街頭キャンペーンに参加しました。協議会会長ほか多数の会員が参加し、会場となったイオンタウン日向にて、市民の皆さんへ啓発グッズを配布するなど、積極的に街頭啓発に取り組みました。

のぼり旗を肩に、啓発にいざゆかん！

平岩発

日向のビューポイント！
ネモフィラ、春が見頃

平岩まちづくり協議会の代表的な取組といえば、「ひらいわ花いっぱい運動」。なかでも、国道10号から望む太平洋の眺望が素晴らしい「金ヶ浜ビュー園地」では、季節の花々が植栽されています。

このたび、金ヶ浜園地を守る会と連携して、同地に「ネモフィラ」の苗を植え込みました。みんなで協力して、ハウスでの苗づくりから一生懸命に取り組んでいます。

春には、綺麗な花を一面に咲かせてくれそうです。お楽しみに！

愛情を込めて植えられたネモフィラの苗

塩見発

塩見の高齢者に元気を！
グラウンドゴルフ大会

11月28日(土)、塩見まちづくり協議会は、コロナ禍で交流の機会が減っている高齢者の皆さんを励まそうと、「第10回塩見地区グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

秋晴れの下、会場の農村公園（中村区）には、塩見地区６区から72人が参加。一打一打に歓声が上がり、笑顔の絶えない大会となりました。

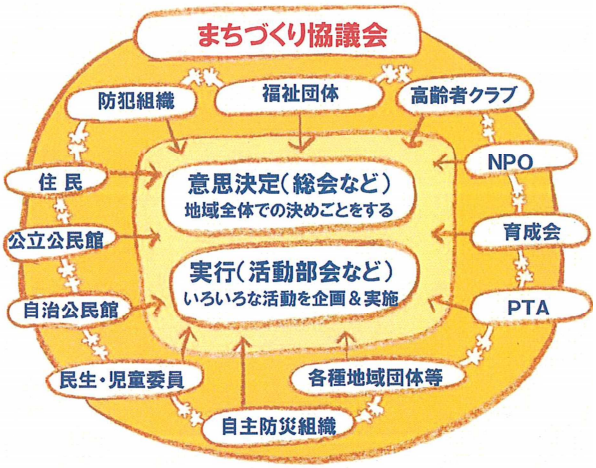
見事、【団体の部】優勝を勝ち取ったのは、新財市区「ニコニコクラブＢ」の皆さん。日頃の練習の成果を十分に発揮されていました。

奥野区VS中村区　さて勝者はどちら!?

まちづくり協議会とは

住民が、地域の自治を進めるために、自主的につくることができる組織です。

地域には、教育や福祉、防犯など、さまざまな分野で活動する団体があります。こうした団体で活動する住民を含めた多くの人々が、それぞれの経験や知恵、力を持ち寄って、自分たちの地域に必要な取組を話し合い、活動する組織が「まちづくり協議会」です。



NPO

市民協働の大事なパートナー
NPO活動の活性化へ

NPOとは、英語の「Non Profit Organization」の略語です。

一般的には、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体を総称してNPOといいます。

このうち、「特定非営利活動法人」（以下、NPO法人）とは、特定非営利活動促進法（以下、法）に基づき法人格を取得した法人です。

2013年4月1日から、法に基づく事務の権限が移譲され、「日向市のみに事務所を置く法人」については、これまで県へ提出いただいていた各種申請・届出等の提出先が市地域コミュニティ課となっています。

社会では、NPOは欠かせない存在になっています。NPO法人を設立し、まちづくりや社会貢献をしたい！という皆さんを支援します。

宮崎県 NPO ポータルサイト

宮崎県生活・協働・男女参画課が配布している「特定非営利活動法人の設立及び管理・運営の手引き」には、法人の設立認証の申請に必要な書類の記載例や解説のほか、法人設立後の届出等の記載例も掲載されています。
宮崎県ＮＰＯポータルサイトからもダウンロードできます。

David´s ROOM

第１３代日向市国際交流員
コンスタス・デイヴィッドさんの活動紹介コーナー

2019年8月に日向市第13代国際交流員に就任したコンスタス・デイヴィッドさん。

英会話教室、幼稚園・保育園等の訪問活動ほか、各種イベントなどを通して、市民の皆さんと国際交流を深めています。

広報ひゅうがのコラム「デイヴィッドの日向レターズ」を楽しみに待ってらっしゃる方も多いと思います。毎月、デイヴィッドさんが、アメリカの話題を紹介しながら、日本文化との違いも交えて、綴ってくれています。

市ホームページでは、「Hyuga Sea Spray」と題して、さまざまなトピックを取り上げたニュースレターもアップしています。こちらは、よりリラックスしたデイヴィッドさんの姿が垣間見れますよ。

ぜひ、国際交流事業に参加したり、広報等を通して、異文化に触れてみてはいかがでしょうか。

英会話教室

○年度中、「上半期」「下半期」の2期開催。各6回程度。
○コースは、次の3コース
　①初級昼　②初級夜　③上級（夜）
○受講料は、無料
○対象は、高校生以上
○会場は、中央公民館などの公立公民館
○各教室、定員あり

派遣事業

○国際交流員の派遣手続は、次の流れになります。
　①事前に地域コミュニティ課まで、ご連絡を。内容を確認し、日程調整します。
　②調整後、「派遣申請書」を提出いただきます。
○現在、幼稚園・保育園等への訪問活動が中心ですが、家庭教育学級、高齢者学級のほか、地域イベント、お祭りなどにも、積極的にお声かけください。

協働のまちづくり ＮＥＷＳ
number 40

2022年3月発行　編集・発行／日向市総合政策部地域コミュニティ課
〒883-8555　宮崎県日向市本町10番5号　TEL0982-66-1005